

●学校支援情報●

岡崎むかし館通信



<http://www.city.okazaki.aichi.jp/libra/803/p014017.html>

郷土学習のヒントとなる情報を発信します。

もう3月ですね。今年度も多くの学校にむかし館をご利用いただき、ありがとうございました！
平成27年度もよろしくお祈いします。

地域の再発見

野本先生のフィールドノートメモ

地域を歩く—矢作西学区・和志取神社—



和志取神社所蔵の薬研



底板の裏面「下 本若」の陰刻の彫り方を「薬研彫り」という。

今回は、「^{やげん}薬研」についての情報を提供します。

昨年から矢作地区へ訪問する機会が得られ、資料調査をしています。そこで、大型のしかも江戸期のモノと見られる「薬研」に出会いました。

薬研は、別名“くすりおろし”ともいい、体重をかけて草・根・木や動・鉱物質の物を粉碎する時に使う一種の製薬道具ですが、唐辛子の調整などにも利用されました。使い方を考えると「薬を研ぐ」と書く意味がよくわかります。

円盤形の刃(薬研車と呼びます)の中央を通る軸棒の両端を持って、転がしながら押し潰すように使うと思われがちですが、この方法では粉にはなりません。V字形の受け皿(舟と呼びます)の壁に刃の刃を研ぐように合わせると、あつと言う間に粉末にすることが出来ます。また、中世武士の館跡や寺院跡で発掘される、断面がV字に掘られた深い溝(堀)のことを指して「薬研堀」と呼ぶことがあります。

さて、矢作地区で出会った和志取神社の薬研は、底板の裏面に「下 本若」と陰刻があり、底辺の最大長83.7cm、胴体：横63.4cm、幅：20.7cm、中円形直径(舟のV字形の受け皿)：52.5cm、高さ：18.6cmとかなり大きなものですが、どのような使われ方をしていたのでしょうか。薬研と一緒に花火の大筒が保存されていた事から、当時の若者たちが打上げ花火で地元の祭礼を盛り上げるために、花火づくりに使ったものと思われます。

このように、モノには知恵と工夫が見られ、かつモノから読み取れる歴史もたくさんあります。観察する目を養い、モノを大事にしましょう。【N】

むかし館利用の事例

「こんな道具も借りられるんだ、へえ～」

むかし館では、所蔵道具の貸出をしています。ホームページなどで紹介している「貸出道具キット」以外にも、貸出できる道具があります。しかし、どんな道具を貸出できるのかリストの整備が追いつかないため、なかなか紹介できないでいます。

平成26年度にお問合せいただいて、貸出をした貸出キット以外の道具について、その一部をご紹介します。



卓上蓄音器／昭和初期

状態が良く、まだまだ動く手回し蓄音機。レコード盤と合わせて貸出します。約80年前の音を聴き比べてください。



ポータブル・レコード・プレイヤー／昭和30年代

市民の方より、壊れていたものを修理してから寄贈していただきました。おそらく40歳以上の方々には懐かしい道具だと思います。童謡、TVアニメ音楽、昔ばなしの他、東京オリンピックの実況など、よく雑誌の付録についていた、カラフルでペラペラなソノシートと合わせてどうぞ。



水筒とお弁当容器／昭和初期～40年代

昭和の初期から40年代、そして現代にかけて、容器の移り変わりを比べてみることができます。道具の素材の違いだけでなく、お弁当の思い出など家族に話を聞くのも楽しいと思います。

- 水筒：コルク栓、アルマイト製、魔法瓶、キャラクターが描かれたプラスチック製
- 弁当容器：竹の皮、柳行李製、アルマイト製

むかし館は小さな「薬研」を所蔵しています。昨年の夏休み体験講座で、薬研を使いお茶の葉を粉碎してもらいました。今後も所蔵資料を整理して、貸出道具や体験講座で使える道具を少しずつ増やしていきます。使ってみたい道具のリクエストお待ちしております。

●編集/発行(隔月) 岡崎市立中央図書館・企画班 平成27年3月
〒444-0059 岡崎市康生通西4-71 tel.23-3167 / fax.23-3165

開催中 【企画展「くらしの道具～今と昔～①書く」 ～ 3/10】

次回 【企画展「木の民具～桶・樽～」 3/12 ～ 7/7】